

福岡県立築上西高等学校

自己評価						
学校運営計画 (4月)			評価(総合)			
学校運営方針	「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性等」の三柱のもとに教育活動を行い、「生きる力」を育て、地域に貢献し、地域に必要とされる学校。					
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標				
「～Change～変えよう西高」をスローガンに、生徒の実態に応じた指導の工夫・改善や学校改革に向けて意識の高揚が図られた。今年度は、生徒・保護者及び地域等から信頼され魅力と活力溢れる学校づくりを行うため、授業の充実及び地域連携の体験型探究活動等を通して、生徒の自尊感情を高める取組を工夫し、教職員が団結し、より実効性のある教育活動を実施する。	基礎学力の充実	「鍛えて、ほめて、子どもの可能性を伸ばす」分かる授業、ICTの活用とAI型授業の推進、地域と連携した課題探究による課題解決能力の育成。				
	積極的生徒指導の徹底	基本的生活習慣の確立、面談や「MIRAI発見シート」等の活用による生徒理解、生徒会活動・部活動の活性化。				
	希望進路の実現	3年間を見通した進路指導計画「築西プラン」の実行、学びなおし等を利用して個別最適化された指導の工夫。				
	図書教育の充実	図書委員会活動の活性化に努め、朝の10分間読書や月末朝朗読の充実を図り、読書に親しむ態度の育成。				
	人権・同和教育の推進	知識・理解のみならず、人権感覚を育む特設授業の充実と自尊感情の向上、「いのち」の大切さ・他者尊重の精神を育む。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題		
学習指導	希望進路を実現できる基礎学力の充実	課題を計画的に実施して家庭学習の習慣化を図るとともに、授業において小テストを実施し、「できる」喜びを実感させることで自尊感情を高める。 成績不振者や気になる生徒について情報交換を密に行い、補習や特別保護者会などを通じて手厚い指導を行う。				
	効果的な学習指導の研究と実践	AI型授業の推進に取り組み生徒が共に学ぶ基盤を築くとともに、授業評価アンケート及び授業改善シートを実施し、教職員の意識向上と授業改善の推進を図る。 ICT機器を活用し学習への意欲を高めるとともに、授業規律の確立を図り、授業を大切にすることを育成し、基礎学力の向上へとつなげる。また、地域と連携した課題研究に取り組み問題解決能力の育成を図る。				
生徒指導	基本的生活習慣の確立	時間に厳しい生徒を育成する上で、担任が家庭と連携し、安易に遅刻・欠席・早退をさせない雰囲気作りをしていく。 生徒指導規則を全職員で共通認識を図り、学年で温度差がないように指導していく。				
	規範意識の向上	生徒会、部活動生徒を中心に、挨拶の徹底を図り、全校生徒が明るく元気に挨拶ができる生徒育成に努める。 身だしなみや公德心を指導する上で、全職員が生徒に声かけをしていき、根気強く指導していく。				
進路指導	生徒に早期の進路目標を持たせ、その実現に向けて努力させる。	生徒の進路に対する興味・関心を高めるため、学年集会等を利用して、進路についての説明・情報提供を行う。また、外部講師・卒業生によるガイダンスや講話を積極的に実施する。 進路に向けての意識づけのため、進路希望調査を定期的実施し、希望進路を把握する。				
	個々の生徒の能力を伸ばし、第一希望進路の実現を図る。	国公立大学や公務員等の合格に向けた小論文指導や面接指導を実施する。 放課後課外などでICTを活用した指導を行う。また、公務員希望者への外部講師の派遣なども導入する。				
研修	授業研究の推進・充実	2学期に研究授業週間を企画する。事前に授業内容をOneNoteに掲載し、広く周知して多くの職員の参観を得るようにする。				
	職員研修の推進・充実	生徒の自尊感情を高める指導が行えるよう、本校の生徒実態にあった研修内容を各分掌と連携をとり企画する。				
学年	1年:基礎学力の向上と基本的生活習慣を身につけ、自尊感情を育む。	日々の授業で授業規律を確立させる。挨拶の励行や言葉遣いを指導することで、他者とのより良いコミュニケーションを築く。総探の時間を使い、地域との連携や校外での探究活動を行い、課題解決能力を育む。				
	2年:学力向上と具体的な進路目標の設定。人間力を磨き、社会性を身につける。	希望制課外やチャレンジタイムの内容を充実させ、意欲的に取り組ませる。インターシップや各学校行事を通して、目的意識をしっかりと持って積極的に行動するとともに、他者を尊重し協調性をもって行動することができるようにさせる。				
	3年:希望進路実現に向けた取組、指導の充実と社会に出て通用する人間性の向上	自己の能力や適性に応じた進路を主体的に決定し、その実現を図るよう積極的に活動させる。また、そのための手立て(小論文、面接指導等)を充実させる。教育活動全般を通じて社会に出て有為となる人間性や他者尊重の心、自己教育力を向上させる。				
図書教育	朝読書の更なる充実	全職員、全生徒参加のもとに実施し、月末に1度、放送による詩や散文の朗読を行う。				
	図書委員会活動の充実	図書委員会を開き仕事内容を明確にし、各自の仕事に責任を持たせる。				
保健指導	健康的な生活を選択する習慣・態度・知識を身につけさせる。	生徒の健康状態等を十分に把握し、職員、保護者との共通理解のもとに生徒の生活の改善を図る。				
	教育環境や生活環境の維持改善を図る。	落ち着いた学習環境を維持し、衛生的な学校生活を送れるように校内美化活動に全生徒・全職員で取り組む。				
人権・同和教育	生徒の人権感覚を育む特設授業の充実。	生徒の課題に適応した特設授業となるよう、従来の教材や内容の見直しおよび改良を行う。				
	職員の人権・同和教育および特別支援教育に係る指導力の向上。	支援や配慮が必要な生徒への指導も含め、今日的な人権課題に対応できるよう、職員研修を充実させる。				
情報化推進	情報システムの発展と社会の変化に柔軟に対応できる能力の育成。	情報機器を生徒に活用させることで、情報リテラシーを育成する。				
教育環境	生徒の安心・安全な学校生活を支えるため施設・設備の維持管理に努める。	校舎改修工事の円滑な実施のため校内及び業者との調整を図る。 老朽化した既設校舎を安全に使用できるよう定期的な点検を実施し、早めに修理・修繕を行う。				
	開かれた学校づくり	「総合的な探究の時間」を使って地域交流を実施する。 築上町との連携協定書に基づき、今年度から実施される学校活性化プランを活用して地域との交流を図る。				
自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>						

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
	A 適切である B 概ね適切である C やや不適切である D 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
評価項目以外のものに関する意見	